

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0011600008		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホーム あすなろ		
所在地	愛知県名古屋市長区島田二丁目621番地		
自己評価作成日	平成21年9月12日	評価結果市町村受理日	平成23年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371600731&amp;SCD=320&amp;PCD=23">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371600731&amp;SCD=320&amp;PCD=23</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	名古屋市緑区左京山104加福ビル左京山2F
訪問調査日	平成23年3月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

天白川にほど近い位置にホームはあり、なるべく毎日、屋外に出かけ、桜並木など季節の移ろいを感じながら暮らしていただいております。又、毎年春、秋にはバス旅行に出かけ、その他にも、楽しみのある外出企画を毎月行っています。日常生活の中では、昨年度は町内会の組長をホームでさせていただき、ご入居者の方が中心となり勤めさせていただきました。地域清掃や、前にあるJAグリーンセンターでの買い物など地域の中で暮らし始め、今年で6年目を向かえ、ご近所の方からご挨拶などいただけるようになりました。ホームでの暮らしの支援の中では、毎食の食事作りなどの家事をご入居者とスタッフが協力しながら行っています。役割のある暮らしの中で、その方らしく、ゆったり、楽しく、活き活きと暮らして頂ける様支援させて頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度『私達は、ゆったり楽しく活き活きと暮らせる為の支援をします。私達はお一人お一人の尊厳を大切に、敬愛の念をもち支えます』と理念を職員全員で作成し、日々のサービス提供で実践を目指している。

家族の来訪時には積極的に声かけを行い、親密な関係の構築に努め、ボランティアの訪問、連携医の往診、外食、買い物等地域と触れ合う機会を作ることで、ホームを共に支え合う人々へ取り組みの理解を深めている。

今年度はスプリンクラーの設置を行い、利用者・家族の更なる安心安全に繋がっていることであろう。そして、熱意ある管理者の下職員一人一人が自主性と責任感を持ち、日々サービスの提供を行ってお

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私達は、ゆったり楽しく生き活きと暮らせる為の支援をします。私達はお一人お一人の尊厳を大切に、敬愛の念をもち支え合います』と運営理念を本年度全職員で考え、一方的な支援ではなく支え合う思念を実践しています	職員全員でホーム独自の理念を考え、職員全員で理念の意味を理解し、日々の支援で理念に基づいた支援をすることができるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来るだけ、近隣で買い物をし、日常的な繋がりを重視し暮らしている。又、地域清掃にはご入居者と職員で参加している。開設7年目となり、近隣の方とも顔なじみとなり、ご挨拶いただけるようになった。	積極的に地域行事に参加をし、ホームが地域に根差した存在になるよう地域住民への理解を求めている。また、回覧板を利用者自ら記名し次の家まで届ける等日常的な活動から地域住民との係わりを持てるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩、毎日の買い物などできるだけ屋外にでて、ふれあいの中から地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いたご意見の中ですぐに行えるものは実行している。	運営推進会議は3か月に1度実施し、活発な意見交換の場となっている。また、ホームは日々の活動の報告からの参加者の気づきを日々の支援に活かしサービスの質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からのご相談などで、市町村担当の方へ相談したりしている。	ホームと区役所が目と鼻の先であり、日常的にホームでの活動報告や相談、指導等密な関係作りを行い情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為は正しく理解しているが、玄関の施錠については、設備的なもので視角に入り、幹線道路も近く、危険な為施錠している。他は行っていない。又、安全の理解のある方はご自由に入出入りし、買い物など外出させている	管理者は身体拘束の弊害を理解しており、利用者の安全の確保等職員で話し合い意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて行っている。職員はレポートを書き、自ら考える機会をもち、見過ごす事のない風土が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はある、関係者と協議している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な事前説明を行っている。ご入居後も常に疑問や不安を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時には、必ず、最近のご様子をお伝えしながら、ご要望がないかお尋ねしている。又、お一人では言いにくい要望などを言い出しやすいよう、ご家族会として、食事会などを開催している。	家族来訪時や家族会の機会を活用し活発に行っている。常に電話連絡等家族の安心に配慮した取り組みで運営に速やかに反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を設け聞いている。又、日常的に不安、不満を聞けるよう配慮している。	管理者は職員との信頼関係の構築に努めており、日々のコミュニケーションの中で意見・要望の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表に本人評価とユニットリーダー評価、管理者評価、施設長評価の欄で様々な角度から評価し、努力が成果(昇給)に反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は非常勤、常勤を問わずに参加している。又、ユニット単位、法人単位の研修は毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会が多くそこで情報交換などしている。又、同法人内の他事業所との交流もあり情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から、ご入居後落ち着けるまで、ご本人のお言葉や表情などのご様子から、ご本人の不安や安心を感じ取れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話に耳を傾けながら、ご要望、不安を解決できるよう話し合いを重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のお話に耳を傾けながら、ニーズを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活活動を共にし、ご入居者様が職員を心配してくださる場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、ご本人の支援について十分な話し合いを行い、共に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方のご面会を求めたり、出かけたりにしている。	入居時に利用者の生活歴や意向を聴取し、本人の生活ペースに合わせた支援を行なっている。行きつけの喫茶店への外出等利用者の今までの習慣や趣味の継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情などから快、不快を推察し、それぞれ相性のよい方と過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後他施設へ移られた方への面会を中の良かったご入居者とでかけたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症状の重い方が多いユニットだが、一人ひとりの生活歴や嗜好を重視し、記録もご本人の言葉を記録するよう努めてい、そこからご本人の思いや希望を見つけ出し、ケアに活かしている	職員は利用者の声を「聴く」ことを大切にしており、日々の何気ない一言から利用者の意向要望の把握に努めている。また、日々の記録の中にどんな些細なことでも利用者の言葉が記録されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前はもとより、ご入居後もご家族より情報を頂き、暮らし方の検討に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に来る事、解る事をアセスメントをしておし、現在の有する能力を把握している。一日の過ごし方、心身の状態はタイムリーな記録がなされ、情報は共有されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的開催し、チームで検討し、ケアプランに活かしている。	利用者・家族の意向希望を大切にし、利用者が何を求めているのか、何が一番良いのかを話し合い介護計画に反映させ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個別にタイムテーブルに行動を、その他の気づき、ご本人のお言葉は別途記録し、カンファレンスに落とし込み、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに定期的に訪れてくださる方、非定期で訪れてくださる方など地域の方に支えられている。又、地域のお店でご入居者の作品の常設をして頂いている事がご本人の能力の発揮と生き甲斐に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医など御希望がある方は御希望に添っている。又、協力病院の医師とも相談しやすい関係にあり、医療との連携が取れている	月に2回の往診を実施し、定期的な健康管理を行っており、利用者に対し適切な医療支援が提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護師は現在はいないが、法人内にいる為相談などしている。又、協力病院の看護師は電話でも相談を受けてくれる為、適切な受診等を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期退院できるよう相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人と話し合っている(ご本人はご理解や意思疎通のある方)	法人として、重度化、ターミナルに関する方針が確立している。入所時、家族にホームができること、できないことを説明し理解を得ると共にホームとしてできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断力や実践力には力量の差はあるも、半年に一度訓練をし役立てている。常に適切な指示が求められるよう連絡体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年町内会の組長をしていた事もあり、町内会との連絡をとるなど行っている。又、避難場所の天白区役所がすぐ近くにある。連絡網を持って職員がかけつける体制が出来ている。	消防署の協力を経て避難訓練を定期的に行っており、日頃から職員の防災意識を高めている。今年度、スプリンクラーの設置によって更なる利用者・家族の安心・安全に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライバシーなどの話し合いは日常的に行われている。又、研修テーマで取り上げている。	本人の介護する側、される側という関係ではなく、温かみのある日常支援を行い利用者のここの尊厳を大切にしている。訪問調査当日も気配りの行き届いた支援を行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に働きかけている。言葉で伝えられない方は、表情などから汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を大切にしている。常に何に対して心が動くか観察して、支援に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二者選択できる場合は二者選択で衣類を選んでいただく(二者選択は大凡の方が出来る) 出来ない時はご本人が好みそうな衣類など考えた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望、買い物、調理、配膳、片付けなど、職員はご入居者と一緒に常にしている。又、献立での嫌いな物がある方へは別の物にするなど配慮している	調理、片付け、買い物、配膳など利用者と職員が一緒にとけこみ自然な流れで楽しみながら行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲み、利用者が「食」を楽しむことができるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には飲水量の記録をしている。食事の栄養、量は把握し援助している。嗜好、咀嚼力への配慮はしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の出来る事、出来ない事に合わせた介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サイクルは表にして掴んでいる。日中は全員トイレにて介助している(二人で介助の方もいる)	自立への支援を念頭に排泄を支援している。また、職員は利用者の様子を敏感に察知し、トイレへの誘導等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に乳酸菌その他で取り組み、下剤の使用量は激変した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある時は希望に添い毎日入浴している。希望は無いが拒否が観られやすい方は、入りたいタイミングを見つけ入浴して頂いている。	入浴の時間や回数等は入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の可否については体調を勘案しその都度確認したうえで決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前のお茶の時間にゆったりと寄り添い、クールダウンし安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の変更等の申し送りされ、知っている。又、薬剤情報を纏めたファイルが職員の手元に常にあり、随時確認できるようになっている。研修に薬剤の副作用などを学ぶ機会を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った楽しみを常に模索しケアに活かしている。又、アクティビティーの気づきは「この場面がいい表情が観られた。出来た」など職員間で提案されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症状の重い方が多いユニットで、希望を述べられる方が少ないが、希望があれば出来るだけ添えるよう支援している。	日常的に外出する機会を設け、近所の公園散歩や買い物、花見、紅葉狩り等の外出支援を行っている。また、夜間外出の支援も行っており、名古屋駅のイルミネーションを見に行く等職員のシフト調整し利用者の希望に添えるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理している方もいる。毎日財布がなくなったと言われるも、共に探している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光などには配慮している。出来るだけ、生活感のあるように支援している。	十分な介助スペースの確保・バリアフリー設計等入居者の安全面に配慮した作りとなっている。リビングには、テーブル・ソファ等が設置され、入居者がゆとり落ち着ける環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広い為、それぞれに気にいった場所ですごされている。又、ご自身で選べない方は、好みを考えた席を用意している。(騒音が嫌いな方は静かな場所など)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にはご入居時よりお願いしているが家具までお持ちいただける場合は少ない。	家具の持ち込み等は自由であり、使い慣れた家具や趣味の道具を配置する等居室一つ一つに個性が感じられた。利用者本人が生活しやすい環境となるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベータに行き先を貼るなど目印をつけたリ、解る可能性のある方には観やすい時計を置いたりしている。		

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	積極的に地域行事に参加をし、ホームが地域に根差した存在になるよう地域住民への理解を求めている。また、回覧板を利用者自ら記名し次の家まで届ける等日常的な活動から地域住民との係わりを持てるよう努めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は3ヵ月に1度実施し、活発な意見交換の場となっている。また、ホームは日々の活動の報告からの参加者の気づきを日々の支援に活かしサービスの質の向上を図っている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	ホームと区役所が目と鼻の先であり、日常的にホームでの活動報告や相談、指導等密な関係作りを行い情報を共有している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族来訪時や家族会の機会を活用し活発に行っている。常に電話連絡等家族の安心に配慮した取組みで運営に速やかに反映できるように努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	
総合評価		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年度『私達は、ゆったり楽しく生き活きと暮らせる為の支援をします。私達はお一人お一人の尊厳を大切に、敬愛の念をもち支えます』と理念を職員全員で作成し、日々のサービス提供で実践を目指している。

家族の来訪時には積極的に声かけを行い、親密な関係の構築に努め、ボランティアの訪問、連携医の往診、外食、買い物等地域と触れ合う機会を作ることで、ホームを共に支え合う人々へ取り組みの理解を深めている。

今年度はスプリンクラーの設置を行い、利用者・家族の更なる安心安全に繋がっていることである。そして、熱意ある管理者の下職員一人一人が自主性と責任感を持ち、日々サービスの提供を行っており、今後も利